



ち☆ネット!

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です!

2022年10月13日 第42回 地域医療ネットワークの会

「経鼻経管栄養法と在宅酸素療法を持ち、 在宅療養へ移行した極低出生体重児の支援と連携」

「医療的ケア児」の生活支援や教育に関する取り組みなど、最近ではニュースでも取り上げられるようになりました。しかし「医療的ケア児」についての生活の実際や現状は、まだ十分知られていないことも多くあります。「医療的ケア児」をどのように支えて行くべきか、実際に当院で出生し自宅退院をした事例を通して育児と社会参画の現状を知り、病院や地域の関連機関が担う役割について学ぶことができました。今回はZOOM開催し、27施設68名の参加がありました。

【総合司会／開催の挨拶】

地域医療ネットワーク世話人 聖マリアンナ医科大学病院 行田 菜穂美

【事例紹介】

聖マリアンナ医科大学病院 看護師 大塚 美穂子

【退院後の支援】

たくこどもクリニック 医師 玉置 一智氏
訪問看護ステーションゆらりん 訪問看護師 黒田 まゆみ氏
地域相談支援センターそれいゆ 医療的ケア児等コーディネーター 小松 江美氏

【閉会の辞】

地域医療ネットワーク世話人 聖マリアンナ医科大学病院 桑島 規夫

当院のメディカルサポートセンター大塚看護師から、経鼻十二指腸チューブ、持続注入ポンプ、在宅酸素療法を使用している医療的ケア児とその家族をとりまく環境が厳しい中で地域とのつながりを持ち、母が復職まで果たした事例の紹介がありました。ご両親のご理解を得て、児の入院～退院までの様子をオープニング・エンディングで流させていただきました。



たくこどもクリニックの玉置医師からは訪問診療での経過や、保育園入園を希望された時点での病状、ご家族が入院～退院を振り返り、オンラインカンファレンスや院内外泊で退院後のイメージが付き、概ねそのイメージ通りに過ごしていることや、退院調整看護師から出産後に色々な情報が必要となるが一つ一つ教えてもらったこと、訪問看護師から内服の一包化が可能であること、他の医療的ケア児の処置方法の情報提供がとても重要だと感じたということが紹介されました。訪問看護ステーションゆらりんの黒田看護師からは、退院後の支援経過とリハビリの様子が紹介されました。状態よっての個別性のある訓練の様子が紹介され、少しずつ成長発達している様子を知ることができました。地域相談支援センターそれいゆの医療的ケア児メディカルコーディネーター小松さんは、社会復帰保育園入園に向けた支援と、本人と家族が孤立しないよう地域で支える仕組みやネットワーク作りが大切であることをお話いただきました。



意見交換では、退院後の成長に感動する声や、社会復帰の際の資源の少なさや小児という領域での経験の少なさゆえ、尻込みしてしまうこともあるという声も多々ありましたが、医療的ケア児支援法の施行に伴い、川崎市のサービスが拡充し、誰一人取り残さないよう地域で手を取り合って支援していくことの大切さを共有できました。

終了後のアンケートでは「児の関心や遊びを活かした看護、リハビリを工夫した説明がとても新鮮で、貴重な実践の様子を聞くことができた」「病院～地域への連携、日々の連携を実際に形として見る事ができた」「お母さんがとても意欲的に情報を集め保育園入園に至ったんだらうと思ひ、感心した」という意見が多く聞かれました。ご家族の協力のもと、退院～現在までの経過を知ることができ、退院前からシームレスな関わりの必要性、多機関多職種連携がとても大切になることを再確認させていただきました。

